「フランスの女性史と『第二の性』の再検討を通したジェンダー・アプローチ」

法文学部　教授　金山　富美

「平等」の世、小・中・高と人権教育を受けてきたはずの学生だが、実際にはジェンダーの諸問題を自分自身が関わるものとして受け止めることが必ずしもできてはおらず、具体的な事例を前にすると戸惑ったり紋切型の対応に終始する姿が看取される。

金山研究室では、フランス思想に基づき男女平等の理念がどのように進展して今日に至ったのかの研究を軸に、男性中心の社会に切り込んだ女性、つまりボーヴォワールの言葉を借りれば「他者化された性としての女」の枠を超えて社会に影響を及ぼした女性たちを、各時代の政治・経済・社会的背景（また男性により創られた「思想」や「学問・研究」）を踏まえて紹介し、学生にジェンダー問題を主体的に考えるように促す授業実践に力を入れている。

様々な学問分野に広がるジェンダー研究だが、授業ではその最も基礎的な考え方を、日仏文化比較や日本の諸問題も交えながら講述することによって、学生たちがジェンダーを過去の知識としてだけでなく、現代へと、そして自らへと身近に引き寄せて把握できるように指導を行っている。